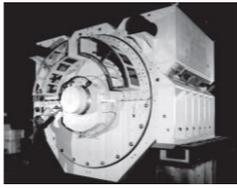


整理番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
2022 -96	2022/6/7	Swarm: A Drone Wars Story	スウォーム:ドローン戦のストーリー	THE USNI BLOG 2022/6/7	 スウォーム攻撃は約10年前に出てきた概念ですが、この10年間でますます進化していると思われます。	岩崎洋一
2022 -97	2022/6/28	AUKUS: How "Sovereign" Does Naval Shipbuilding Have to Be?	AUKUS:潜水艦の建造はどこまで「ソブリン(自国製)」でなければならぬか?	The Maritime Executive 2022/6/28	 オーストラリアの原潜事業に関して、国内シンクタンクのアナリストと元豪州国防省高官の提言です。「SovereignSovereign(ソブリン)」という言葉があちこちに出てきますが、これは主権という意味よりも、産業の「自国製」を意味する用語らしいです。結論としては、豪州は建造でのソブリンを追求するよりも、「共同潜水艦事業」で国家間の分業体制をめざし、一部の部品やアッセンブリーを豪州製にしていく 込もうとするものです。具体的には、米国のバージニア級SSNを候補とし、その建造は米国に任せ、その中の一部の構成品を豪州製にして、米海軍向け SSNにも将来それを使わせ、あわよくば米海軍のSSN整備も豪州国内でしたい、というものです。原潜の整備に四苦八苦している米海軍にはプラスかもしれない。日本の造船所では原子力艦の整備は現状はできないでしょうから。)二人の筆者の発信力がどれくらいなのかは知りませんが、傾聴に値します。	岩崎洋一
2022 -98	2022/6/23	Megaproject Partners Test New Application for Lidar Models in Battle Damage Assessment	メガプロジェクトのパートナーが、戦闘被害評価にライダーモデルを用いた新たな応用例を試験する	Naval Sea Systems Command 2022/6/23	 米海軍は改造工事の事前調査や、戦闘被害評価を行うために、ライダースキャン技術による船全体の3Dデジタルモデルを作り、実際に評価できるかを試験しようとしています。今年度のリムパックで戦闘被害評価の訓練を行う予定です。被害評価の時間短縮は実戦必須であることから、GAOにも指摘されていた事項(No. 2022-26)である。	清水隆
2022 -99	2022/7/5	Chinese Navy, Air Force Active Near Senkaku Islands, Says Japanese MoD	日本の防衛省が中国海空軍の尖閣諸島付近での活動を公表	USNI News 2022/7/5	 一般情報では、最新鋭巡洋艦のレンハイ級(2017年~)は8隻に、駆逐艦のルーマンIII級(2012年~)は25隻に、フリゲートのジャンカイII級(2006年~)は30隻に、どんどん隻数が増えています。日本では、これに相当するのは2007年度計画「あきづき」型以降の艦で、FFMを除けば10隻程度しか建造されていません。建造費、修理費の増額と、人の手当ては待ったなしです。	岩崎洋一
2022 -100	2022/6/28	Lockheed prepping to demo 'scaled EA' capability at RIMPAC	ロッキードはリムパックで「スケールドEA」性能のデモを準備中	Breaking Defense 2022/6/28	 新開発の攻撃型電子戦装置を今年のリムパックで試験する予定です。SEWIP Block IIIは駆逐艦用に開発されており、SPY平面レーダーの間に艦装が計画される大型のようですが、その機能の一部を小型艦にも装備する計画のようです。	清水隆
2022 -101	2022/6/1	Don't Buy Warships (Yet)	軍艦をかうな(今はまだ)	Proceedings 2022/6/1	 プロシーディングス誌のエッセイ・コンテスト優勝作品だけあって、なかなか説得力があります。今の米国にとってはその通りかもしれません。ただし、平時に目の前で対峙する必要のある近隣国の日本には、軍艦の隻数も大切だと思料します。プロシーディングス誌 6月号から。著者は意外にも空軍州兵の中尉です。	岩崎洋一
2022 -102	2022/7/9	South Korea's HHI Working On KDDX Basic Design	韓国現代重工はKDDX基本設計に参画する	Naval News 2022/7/9	 韓国海軍が次世代駆逐艦KDDXの基本設計を現代重工に発注したようです。KDDXはイスンシン級駆逐艦とセジョンデワン級イージス艦の中間的な位置づけで艦隊のワークホースとして使用する予定です。国産のVLS、SAM、SSMのほか、本級から国産CIWSも装備されるようです。果たしてその性能やいかに?	佐々木司

整理番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者	
2022 -103	2022/7/1	DEFENSE INDUSTRIAL BASE DOD Should Take Actions to Strengthen Its Risk Mitigation Approach	防衛産業基盤 国防総省はリスク軽減を強化するた めの対策を取るべき	GAO Highlights: GAO-22-104154 2022/7/1		DODが実施する防衛産業基盤に対するリスク低減対策に対するGAO(米国会計 検査院)の議会委員会報告のハイライトです。DODの調査、報告が不十分という 厳しい内容です。防衛基盤リスクの分類とその根本原因が、日本でも参考になる と思います。	清水隆
2022 -104	2022/7/15	Guam needs effective missile defense now, not in 2028	グアムは、2028年ではなく、今、効 果的なミサイル防御を必要としてい る	BreakingDefense 2022/7/15		ロシアのウクライナ侵攻により、中国の台湾侵攻の可能性が高まったことから、 東アジアの米軍戦力基地であるグアムの早急なミサイル防衛強化に対する要求 も高まっている。現在の計画を進行させつつ、早急の対応策として退役計画の中 のイージス駆逐艦を再配備し、ミサイル防衛能力を高めよという内容です。緊迫感 があります。防衛費2%枠を議論している場合では無いのかもしれませんが。	清水隆
2022 -105	2022/7/14	RIMPAC 2022: Navy Teaming Warships with Unmanned Surface Vessels	RIMPAC 2022: 米海軍は演習に無 人水上艦を参加させる	USNI News 2022/7/14		アウトリガー付き3胴船 USV の「シーハンター」と「シーホーク」(満載 145 トン、 速力 27kt)、及び 今年春に国防総省から海軍に移管されたゴーストフリートの USV2隻「ノマド」と「レンジャー」の 4隻がRIMPAC に参加しています。演習目的 は、有人艦のためのセンサーとしての運用を確認するためということです。	岩崎洋一
2022 -106	2022/7/17	Navy Announces Punishments for Bonhomme Richard Fire, SECNAV Censures Former SWO Boss	海軍は「ボノム・リシャール」火災の 処分を発表、長官は元水上部隊司 令官を懲戒処分	USNI News 2022/7/17		「ボノム・リシャール」火災事件の懲戒処分が太平洋艦隊司令官から出ました。 艦長、副長、前任伍長をはじめ、整備担当の艦隊幕僚(少将)と地域整備セン ター長(少将)などに戒告レターや減給処分などが発せられています。また、こ れとは別に、海軍長官から元水上部隊司令官(中将)に対し譴責レターが出てい ますが、元中將はこれに 猛反発しています。 一方、放火の容疑で拘束されているライアン・メイズ 2等水兵 については、軍法 会議が予定されています。	岩崎洋一
2022 -107	2022/7/20	UPDATED: Marines Pause Amphibious Combat Vehicle Operations at Sea After 2 ACVs Disabled in Heavy Surf	最新ニュース: 海兵隊 は、2台の 両 用戦闘車(ACV) が高波 にやられ た後に海上 での 運用を一時停止	USNI News 2022/7/20		海兵隊のACV が 2台、浅瀬で波に打たれて運用不能になったということです。	岩崎洋一
2022 -108	2022/7/25	Witness to Brilliant Blasts: When Night Becomes Day	ブリリアント・ブラスト(華麗なる爆 発)の目撃者: 夜が昼になった日	Naval History Magazine 2022/7/25		核実験を目の前で何度も経験した筆者による、驚異の知られざる 体験談です。	岩崎洋一
2022 -109	2022/7/23	This Is The Clearest Photo Yet Of Chinese Navy's J-35 Fighter	中国海軍のJ-35に関するこれまで で最も鮮明な写真がこれだ	Naval News 2022/7/23		中国が開発中の新型空母艦載機J-35に関する詳細な写真がウェイボに掲載さ れました。外観から「双発エンジンのF-35」といった感じです。中国海軍は極秘で 開発しているのかもしれませんが、ソーシャルメディアにかかると屋外に出たとたんこ の通りです。それにしてもF-35にそっくり、性能を追求すると必然的にこの形にな るのか、単なる猿真似なのか・・・	佐々木司

整理番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
2022 -110	2003年頃	The electric warship VII - the reality	電気推進艦船VII-実現	Journal of Marine Design and Operations 2003年頃	  <p>本論文は、Type 45の建造着手前後のものと思われる古いものですが、機関科の複数の中佐が執筆した、英海軍の電気推進技術に関するものです。英艦船への電気推進技術の適用に関する、開発・設計思想などが記されています。改めて今読みますと、英海軍が今日に至るまでの電気推進技術の取組みは、約20年前に制定した、国防省の海洋工学(艦船機関)開発戦略(MEDS)に沿ったものであることがわかります。また、本論文にあるように、当時から今日と同様の課題が悉く考慮されており、それらを動機とした、明確な目標や長期計画に基づき、研究開発が進められたことがわかります。もちろん、さほど進歩・発展していない技術も多々ありますが、長期ビジョンとブレない戦略方針に基づく、研究開発の重要性を認識させられます。一方で、伝え聞く、その後の英艦船の不具合は、いずれも原因が特定され、改修も進められていますが、その事実を以て、約20年前の戦略や種々の技術的方針の問題点を指摘することはできないと思いました。むしろ、十分に参考にすべき内容と考えます。</p>	本山泰之